

【公益目的事業 1】

公演事業

1. 第24回 ローランド オルガン・フェスティバル

電子オルガンの魅力と電子楽器による音楽表現の素晴らしさを訴求する。今回は、「オルガン音楽をより身近に、より親しみやすく」をテーマに新たな視点で企画、大会場での開催は1会場とし、これまで実施できなかった地方都市にて小会場での開催を重視して計画、さらなる電子楽器の普及と地域振興を図る。

<実施日程> 平成25年11月中旬～下旬

<会場> 東日本もしくは西日本にて500名以上の大会場での開催を予定
地方都市にて300名以内の小会場での開催を予定

<出演者> ヘクター・オリベラ氏
オルガンコンクール入賞者、各地域から優秀なプレーヤー数名

<入場者> 1,000名（複数会場トータルでの予定）

<入場料> 未定

2. 第30回 レイクサイド・コンサート

浜松市との共催により、プロの演奏家による電子楽器を活用した演奏会を実施する。浜松市北区地域の住民との交流も兼ねた機会として設け、地域社会における電子芸術文化の振興と普及を図る。

<実施日程> 未定

<出演者> 未定

<会場> ローランド浜松研究所「音響リファレンスホール」

<入場者> 130名

<入場料> 寄附金として、一人500円以上
(収入は全額を浜松市社会福祉協議会に寄附)

3. 電子楽器を活用した公演

国内外で電子楽器演奏を中心に活動するプロの演奏家、あるいは新進演奏家を招き、より多くの一般市民に電子楽器の演奏とその魅力に触れる機会を提供する。コンサートを大都市に限らず地方都市でも行うことによって、地域の電子芸術文化の活性化を目指す。また、新進演奏家への発表の機会を提供することで、演奏家育成にも寄与することを目的とする。

<実施日程> 平成25年4月～平成26年3月

<会場> 全国の地方都市

<出演者> プロ・ミュージシャン、マスタークラス受講生から優秀な演奏力を保持する者

<開催予定> 【福山 オルガン・シネマライブ】

地方都市におけるオルガン普及と振興を図るためのライブとして、第4回目を迎える。特に地元のプレーヤーの貴重な演奏の機会、場として定着している。

日時/会場 平成25年5月18日（土） 福山：シネフク「大黒座」

出演予定 佐々木昭雄、橋本有津子、栢本雅子、美淋つゆ子、
他 地元プレーヤーなど

【第4回電子チェンバロとクラシックオルガンの集い】

第4回目を迎える、アマチュアのパロック音楽愛好家のためのイベント。日ごろの練習の成果を人前で披露する機会、場として提供。

日時/会場 平成25年8月24日（土） 浜松：浜松市楽器博物館地下
「天空ホール」

出演予定 アマチュア演奏家

【その他】

電子楽器を活用したライブ、アマチュアのためのファミリーコンサートを、地元楽器店、音楽教室の強力なバックアップが得られる地方都市にて開催予定。

講演会事業

1. ローランド デジタルピアノ New Style Concert 2014

電子楽器への理解を深めることを基本コンセプトとして、演奏を聴かせるだけでなく、デジタルピアノの魅力や可能性についての解説も交えることによって、新しい音楽表現と音楽文化の創造を模索する提案型コンサート。コンサートを通じて人々の電子楽器への興味を喚起するとともに、電子芸術文化に触れる機会を増やすことも目的としている。

- <実施日程> 平成26年2月 東京 (紀尾井ホール)
大阪 (いずみホール) [計2会場を予定]
- <出演者> 千住明氏、／著名ピアニスト (クラシック／ジャズ／ポップス)
- <参加者> 1,200名 (2会場)
- <入場料> 一般3,150円 学生2,100円

2. 教育機関へのコンサート

大学・小学校などの教育現場において、その演奏曲の背景にある作曲家あるいは楽器の歴史などをひも解き、解説しながら講演会又は鑑賞会を進めることにより、生徒・教師・保護者などがより詳細な音楽の背景について学び取ること、ならびに電子芸術文化に触れる機会を増やすことを目的とする。

- <実施日程> 平成25年4月～平成26年3月
- <会場> 各地域における教育機関や公共施設を予定
- <出演者> 国内外のプロ・ミュージシャン、マスタークラス受講生、
地元プレーヤーの出演を予定

【公益目的事業 2】

助成事業

1. 助成金支給

団体、個人を問わず電子楽器を活用したコンサートや音楽研究、海外での音楽活動を支援するための国際交流などに対し、十分な資金を得ることで企画面、内容面ともに質の良い、より充実した活動を行うことが可能となるように助成金を支給する。

＜助成対象日程＞ 平成25年4月～平成26年3月

＜内 容＞ 公演活動、講演会、調査・研究、機材助成、国際交流

＜対 象＞ 個人、団体を問わず、一般公募形式

2. 奨学金支給

公共の教育機関で学ぶ学生のうち、電子楽器の専門的な習得を目指す学生に対し奨学金を支給することによって、学習意欲の喚起とさらなるレベルアップを図ってもらうことを目的とする。

＜給付期間＞ 原則平成25年4月1日～平成26年3月31日までの一年間

＜支給金額＞ 10万円以内

＜対象人数＞ 1名

顕彰事業

1. エレクトロニクス・アーツ浜松賞選考委員会

電子楽器の発展と普及に貢献した芸術家を奨励することでさらなる研究への意欲を喚起し、新たな電子芸術文化の創造の機会を提供することを目的とする、「エレクトロニクス・アーツ浜松賞」の表彰対象者を推薦、選出する。

＜日 程＞ 未定

2. エレクトロニクス・アーツ浜松賞

電子楽器の発展と普及に貢献した芸術家を奨励することでさらなる研究への意欲を喚起し、新たな電子芸術文化の創造の機会を提供することを目的とする。

＜実施日程＞ 未定

＜会 場＞ 未定

＜内 容＞ 表彰状／表彰盾および奨励金 100万円を授与

【公益目的事業3】

音楽学習者育成事業

1. 英国王立音楽検定の運営

世界90カ国以上で毎年63万人以上が受検する世界標準の音楽検定である英国王立音楽検定の日本代表事務局として、日本における更なる音楽レベルの向上と音楽の普及を目的に運営する。

＜実施日程＞	■理論検定[春期]平成25年3月23日*	[秋期]平成25年11月2日
	■実技検定[春期]平成25年5～6月	[秋期]平成25年11～12月
＜受検者数＞	計600名（予定数）	
	■理論検定[春期]130名	[秋期]120名 計250名
	■実技検定[春期]240名	[秋期]210名 計450名
	※平成24年度実績計585名	

*春期理論検定については例年（4月実施）と異なり3月に実施するため、平成24年度の収入及び費用となる。

＜セミナー＞ 東京／大阪 各年2回

2. マスタークラス（第8期）

若手音楽家の育成と研鑽の場の提供を行い、理論面、技術面ともにレベルアップを図ることで日本の電子芸術文化の向上と活性化に寄与し、総合的な鍵盤楽器プレイヤー、優れた指導者を輩出することを目的とする。今年度はアプローチの手法をリニューアルし、より実践的な内容で、よりレベルの高いプレイヤーの育成を目指す。

＜開講日程＞	平成25年4月～平成26年3月 不定期開催
＜内 容＞	対象：高校生以上 定員：最大10名まで
＜受講料＞	未定

3. 電子楽器の魅力を訴求するセミナー&ミニコンサート

電子オルガンをはじめとする、電子楽器の魅力と演奏の喜びを訴求するためのセミナーを地方都市を中心に行う。また、担当講師によるミニコンサートを行うことで、セミナーで学んだ内容を具現化して理解させる。開催は特約楽器店、音楽教室の強力なバックアップの得られる地域とし、さらなる電子楽器を通じた音楽の振興を図る。

＜実施日程＞	未定
＜講 師＞	ヘクター・オリベラ氏、橘ゆり氏など
＜受講料＞	未定

4. 日本における総合大学への音楽マイナー（単位認定）導入を目指すプロジェクト事業

特にクラシック音楽の専門的教育を総合大学の音楽マイナー（単位認定）として設置することで、音楽を専門的に学ぶことをあきらめた学生への活路を与える。また、総合大学に入学後も本格的に音楽を学べる環境を創造することで、「智の追及」のみならず、音楽を通じた、人間として必要不可欠な「感性と創造性」を磨き、本当の意味での人材育成の場としての大学教育を構築する。そのモデルケースをまず慶應義塾大学大学院として、同大学院メディアデザイン研究科とのプロジェクトチームを発足し、教育システムをはじめカリキュラム、ファカルティの構築と運用を図る。また、これらには、英国王立音楽検定、ならびにマスタークラスのノウハウを投入し、相互の関係性のパイプも形作っていく。

＜研究期間＞ 平成25年4月～平成26年3月
本研究は3年間の研究継続を前提とする。（平成24年～平成26年）

＜研究実施場所＞ 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科附属メディアデザイン研究所
（神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1）を主とする。

＜研究費＞ 1年間 3,150,000円（消費税込み）